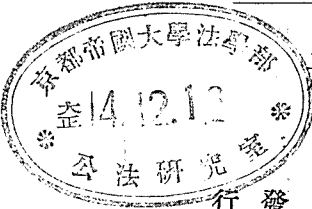


哲 學 研 究

第十卷 第二十二册

第七百七十七號

大正十四年十二月一日發行



三種郵便物認可(大正十四年十一月二十五日印刷紙本(毎月一回一日發行))

フイーアカントの社會學概念に於ける二三の問題(完)

.....文學士 五十嵐 信

カントに於ける「自然」概念の一つの意味

.....文學士 高坂 正顯

朱子の禮論に關する一考察.....文學士 後藤 俊瑞

カント哲學と數學的自然科學.....文學博士 朝永 三十郎

總目録.....

京都帝國大學文學部
京都哲學會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
伊藤	植田	狩野	小西	高坂	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	務臺	米田	文學博士	文學博士	文學博士
典	藏	直	重	正	專	武	胤	十	多	幾	俊	精	康	治	三	理	太	郎	郎	郎
獸	壽	喜	顯	太	太	次	成	元	郎	郎	夫	一	算	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎

前 號 目 次

精神科學的心理學と青年教育の基礎的研究……………	文學博士	小西重直
我が國古代の道德と儒教(二)……………	文學士	高橋俊乘
ディルタイの心理學的理念の基本的なるものに就て……………	文學博士	檜崎淺太郎
論理的普遍妥當性と美的普遍妥當性……………	文學士	赤松元通
モーグの教育作用說……………	文學士	伊藤猷典
社會と模倣……………	文學士	銅直勇

會 告

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 三、會費ハ振替口座大阪益〇六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
- 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
- 振替貯金にて御送金 (振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番) 内外出版株式會社宛に願上候
- 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券差錢御送付下され度候

定 價

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金	四拾錢	金	壹錢
六冊	(前金)	金	貳圓四拾錢	不	申
十二冊	(前金)	金	四圓八拾錢	不	申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十四年十一月廿五日印刷納本
大正十四年十二月一日發行

第百十七號 第十二卷

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 伊藤 猷 典

發行者 大谷 仁 兵衛

印刷者 田 中 和 一郎

印刷所 内外出版株式會社印刷部

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版株式會社

振替口座 大阪三二九五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南
 出張所 京都市京橋區加賀町十番地
 販賣所 京都市神田區錦町一ノ一
 内外出版株式會社

東京 東京堂 北海堂 北隆館

賣 捌 所

(大阪) 上田屋 三誠堂
 (神戸) 寶文館 川瀨書店
 (京都) 共盛社 大盛社

不許複製
 禁轉載

土田杏村著 □ 忽再版

社會哲學原論

菊版六百頁
總 袖 美 裝
定價金四圓六拾錢
書留送料貳拾七錢

社會組織、社會理想、社會政策等の諸問題に根本の哲學的考察を加へた社會哲學の書として、本書は我國の思想界へ全く最初の貢獻だ。長い間の考察の後、著者が本書の第一頁に筆を落してから其の最後の筆を擱くまでには五個年の日時を經過せしめた。著者自身過去の著作に就て此れだけ自信を持つたものは無く、此れを以て自己の哲學の定本にすると言つて居る。其れは過去の短篇を聚めた論文集では無い。全く巻首より巻末へ一貫した原稿紙實に一千枚より成る一個の長大論文である。其の文章や堂々強健、其の思索や細密深遠、著者は僅に其の二三行を得るにさへ數日の苦心を費した所がある。眞に慘憺たる思索の記録だ。新時代を展望する思想界の一大收獲として、敢て世の新人の必讀を要請する所以である。

日本圖書協會推薦
二十名著名の一

本社

東京都西區洞院七條南
摺替內版三九一號

內外出版株式會社

東京都神田區一町一ノ九
摺替東京五區四七六七

東京
東賣部